

「県立西都原考古博物館少年団」

西都原考古博物館には「県立西都原考古博物館少年団」なる組織が存在する。全国では考古学の少年団はあまり存在しないと聞いている。少年団は平成 16 年度に発足し、平成 25 年度の少年団は第 10 代目であり、延岡市、日南市、都城市等、県内一円から現在 26 名の団員が活動している。10 年間では、延べ 200 人以上の団員数になる。

本館少年団の目的は、①古代の人々の生活や知恵を体験活動をとおして学ぶ。②西都原古墳群の価値を認識し、文化財の保存と活用についての意識を高める。③体験活動をとおして社会性や豊かな人間性を育む。の 3 点である。



平成 25 年度の活動計画及び活動の実際について紹介したい。今年度の少年団の年間テーマは「むかしの人たちの衣・食・住について考えよう！」である。少年団の活動は月 1 回であり、衣食住の体験のバランスを考えながら、古代衣装、藍と茜の染色、古代食、土器、石包丁、古墳の模型等を題材にして体験活動を実施する。毎年 11 月には、「西都古墳まつり」にも参加し、団員が勾玉作りを指導している。体験活動は、「ああ、楽しかった。」だけで終わらないように、団員の疑問を深めながら、団員の思考に沿った体験活動をめざしている。そのためには、体験活動にめあてをもたせ、問題解決的な活動の流れの中で、必要であれば、積極的に実験や観察を組み入れて体験活動を実施していく。

今年度の活動の中で、既に石包丁についての活動は終了した。体験活動中に団員のつぶやきを多々聞くことができた。例えば、「稲はどこから日本に伝わったの?」「石包丁にあるこの 2 つの穴は何のためにあるの?」「この石（赤色頁岩を使用した）はむかし、本当に使われていた石?」「この石包丁で本当に稲刈りはできるの?」等々である。このつぶやきを大切にしながら、今後も体験活動を進めていきたい。後日、ある団員の保護者に教えて頂いた。「うちの子ども、自分で作った石包丁を箱に入れて大切にしていますよ。宝物だそうです。おじいちゃんやおばあちゃんにも、石包丁を自慢していました。」うれしい限りである。

第二次宮崎県教育振興基本計画には、「未来を切り拓く 心豊かでたくましい 宮崎の人づくり」がスローガンとして掲げてある。施策目標 V の「生涯を通じて学び、挑戦できる社会づくりの推進」では、特に平成 25 年度が、記紀編さん 1300 年の具体的な展開やふるさと宮崎のよさを学び伝える年度であることが書かれている。団員には、少年団活動を通して、「未来を切り拓く 心豊かでたくましい 宮崎の人」になってほしい。将来的には、文化財や西都原古墳群について学んだことを周囲の人たちにも広めてほしい。そんな思いをもって、西都原考古博物館開館 10 年目の平成 25 年度も職員一同で「県立西都原考古博物館少年団」の指導や支援を行っているところである。

(泊 俊一郎)